

羽田空港機能強化に関する第2回協議会以降の取組等

関係自治体からの主な発言

- 羽田空港の機能強化は必要不可欠。
- また、国からの説明等を通じ、自治体レベルでは、機能強化の必要性やそのための飛行経路の見直しなどの国が提案している内容について理解が深まった。
- ただ、新たな飛行経路の実現のためには住民の理解が深まることが必要であり、今後は国が提案している内容を住民へ説明してほしい。

対する国の考え方の表明

- 関係自治体の皆様には、国が提案している方策の内容について概ね共通認識を持って頂けた。
- 今後はより多くの住民に幅広い理解を頂くことに注力。このため、自治体の皆様の協力も得ながら双方向的対話と情報開示を行い、理解の促進に努めていく。
- まずは、住民目線に立った分かりやすい説明素材を速やかに国土交通省HP等で公表。また、住民から意見を聴くためのHP窓口を設置。
- 理解の促進のための具体的手法、今後のスケジュールについては、専門家や関係自治体とも相談した上で、できるだけ早期にお示ししたい。

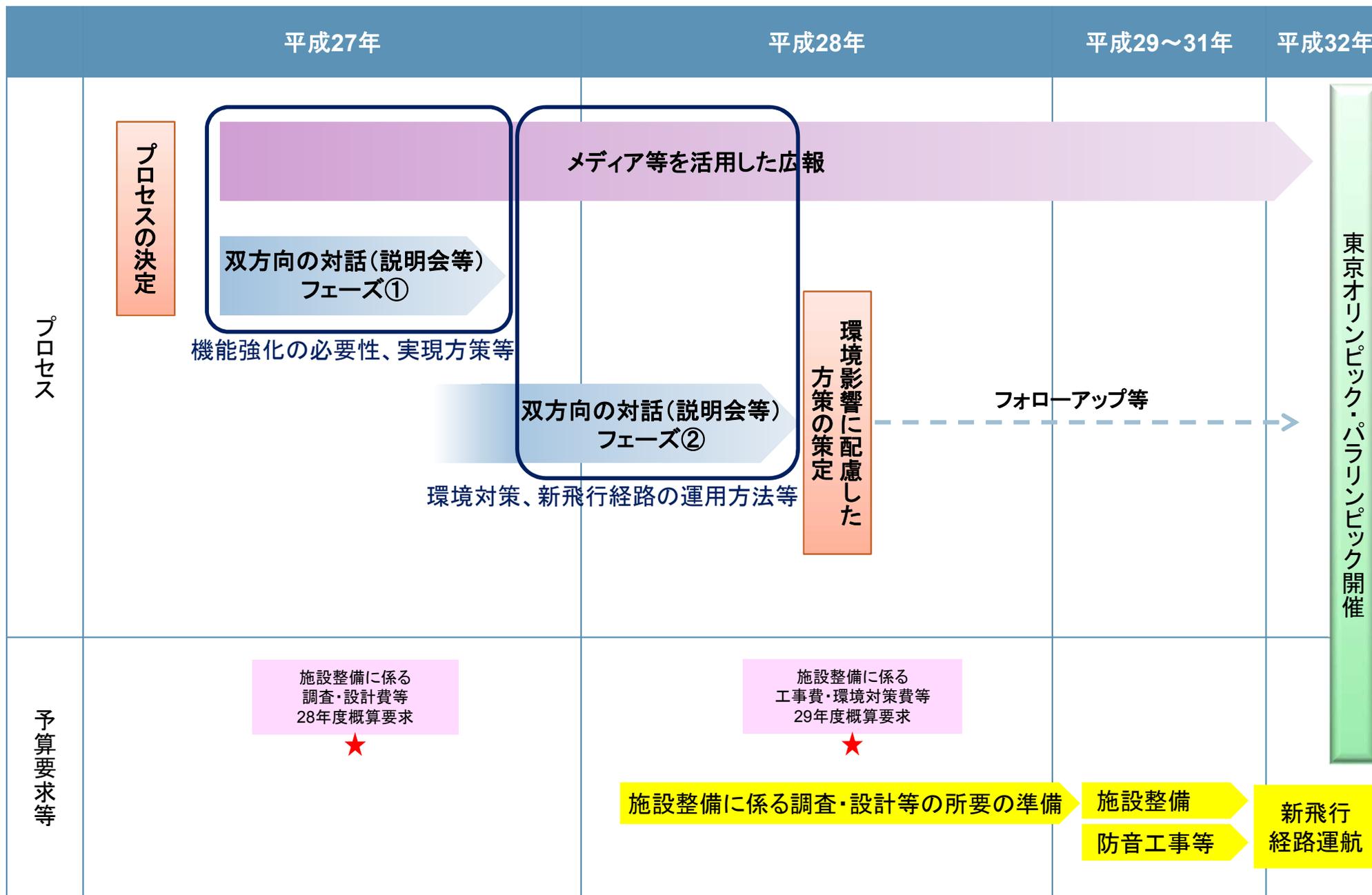
- 羽田空港の機能強化については、今後、より多くの住民に幅広いご理解を頂くことが重要。そのため、関係自治体の協力も得ながら、双方向の対話と情報開示を行い、理解の促進に努めていくことが必要である。
- そのための具体的手法及びプロセスについて、国が一方的に決めるのではなく、その妥当性について合理的根拠を持たせるため、専門家から成る本アドバイザー会議を設けることとした。

委員

屋井 鉄雄	東京工業大学大学院総合理工学研究科 教授
西澤 真理子	リテラジャパン 代表取締役
松浦 正浩	東京大学大学院公共政策学連携研究部 特任准教授

開催実績

<u>第1回(平成27年3月16日)</u>	コミュニケーションのあり方の基本的な考え方、 コミュニケーションの具体的手法
<u>第2回(平成27年5月1日)</u>	コミュニケーションの具体的手法、コミュニケーションのプロセス、 コミュニケーションにおける説明素材
<u>第3回(平成27年5月18日)</u>	これまでの議論の総括



新たな飛行経路案(模式図)と説明会の開催場所



- 南風運用の割合
運用全体の約4割(年間平均)
 - 南風時新経路の運用時間帯
15:00~19:00(切替時間を含む)
 - 北風運用の割合
運用全体の約6割(年間平均)
 - 北風時新経路の運用時間帯
6:00~10:30及び
15:00~19:00(切替時間を含む)
- 上記以外の時間帯については、現行の飛行経路で運用

凡例

▲ 出発経路(北風・南風時)
 低 2,000ft 3,000ft 4,000ft 6,000ft~ 高

▼ 到着経路(南風時)
 低 1,000ft 2,000ft 3,000ft 4,000ft 5,000ft 6,000ft~ 高

● 説明会の開催場所

※1 到着経路の高度は、計器着陸装置(ILS)を利用した進入により、国際基準で決められた一定の角度で滑走路に向かって降下する場合を前提とした想定高度を記載。
 ※2 出発経路の高度は、長距離国際線の大型機が通過する際の想定高度を記載(実際には大半の飛行機がより高い高度を飛行)。

趣旨(目的)

羽田空港の機能強化の必要性や実現方策について、できる限り多くの方々に知っていただき、また住民の方々の多様な意向をきめ細やかに聴くための総合的な取り組み(双方向の対話)の一環として、オープンハウス型の説明会を、関係自治体の協力を得て実施する。



出典：福岡空港調査連絡調整会議HP
(福岡空港プロジェクト)

開催場所等

日程：平成27年7月21日～9月15日

場所：東京都、神奈川県、埼玉県の15地域16会場(全48日間)

(各会場、概ね週末を含む3日程度)

※ 周辺に在住・勤務する方々が広くオープンに参加できるよう、平日の夜や土日のいずれかを含め、新たな経路下の交通の便の良いターミナル駅の周辺等で開催(参加者は、居住地によらず、都合の良い日時、場所で参加可能)。

内容(運営方法)

- 開催期間中、国(航空局)の職員が、数名常駐。
- 大きな説明パネル、映像資料、パンフレット等を活用。国の職員が、来場者に対し、基礎情報について説明を行う。
- 更に、来場者の関心に応じ、フェイス・トゥ・フェイスできめ細やかに情報提供。意見等を丁寧に聴かせて頂く(「コメントカード」に記入)。
- 自治体職員の方々にも、地域政策を担う立場から質疑に対応いただく。
- 頂いたご意見については、国が、全日程終了後、とりまとめ公表。